

平成30年度決算

決算審査は



たぐり寄せたい町民のしあわせ

荒砥高校体育祭より

平成30年度に行った主な事業 (万円未満は端数を調整)

・まちづくり複合施設整備事業	15億3388万円	・除雪委託料	1億1332万円
・日本の紅(あか)をつくる町推進拠点施設整備事業	6079万円	・橋梁安全対策事業	5140万円
・企業立地促進事業	3000万円	・小中学校冷房設備整備事業	1億4254万円
・すまいる住まい！若者定住サポート事業	2330万円	・東陽の里整備事業	6066万円

わが町の 財政力

区分・年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度	説明
財政力指数	0.288	0.283	0.277	高いほど自主財源の割合が高く、財政力が強い。
経営収支比率	89.2	89.4	87.4	低いほど独自の政策のために使えるお金が多い。
実質公債費比率	8.2	7.5	7.6	収入に対する負債返済の割合。

賛成討論

町民第一の姿勢を

笹原俊一 議員

自主財源比率が低い財政状況である。今後も有利な財源を確保し、厳しい財政を支えていく必要がある。

施策においては、子育てや教育環境の整備、定住に向けた住宅施策などについて評価する。完成した日本の紅をつくる町推進拠点施設については、紅花振興と地域活性化に活用されるよう、また、地域づくり推進交付金は、地域の課題解決に向け継続実施されるよう望む。

庁舎の新築については、職員一丸となり遂行されたことに敬意と感謝を表す。

10月からの消費税率引き上げは、町の経済にも大きく影響することが懸念され、混乱のない対応が求められる。

今後も町民第一の姿勢を忘れず、質の高い行政サービスに取り組まれることをお願いし、賛成討論とする。

監査意見書

町民福祉の向上に期待

平成30年度の財政状況は、実質収支が6億円を超え、経営収支比率は前年度から0.2ポイント改善し89.2%となったが、硬直化した状況は続いている。財政力指数は0.288と低いが0.005ポイント改善した。

町税は町民税などの増加で0.3%増加し、全体の収納率も上昇した。

主な事業では、子育て支援、教育・福祉関連施設整備、移住・定住対策、地区コミュニティ推進事業、まちづくり複合施設整備事業など、町政の重要課題において積極的な事業が展開されたことを評価する。

たゆまぬ行財政改革を推進し、計画的・効率的な行財政運営に努めるとともに、より効果的な事業を展開し、町民の福祉とサービス向上に寄与されることを期待する。

代表監査委員 竹田謙一
監査委員 丸川雅春